

京都災害ボランティア支援センター企画広報グループリーダーに就任した高桑統轄より

ゆめっと京都は京都府災害ボランティアセンターに対して竹内文成顧問と高桑鉄則統轄を役員として派遣しています。東日本大震災の発生をうけ京都府災害ボランティアセンターは京都市災害ボランティアセンターと共同して京都災害ボランティア支援センターを発足させました。京都災害ボランティア支援センターの企画広報グループリーダーに就任した高桑統轄より現状などをお聞きました。

未曾有の広域大災害、東日本大震災が発災して2日目に『京都災害ボランティア支援センター』は発足しました。長期的かつ多様な支援活動が見込まれる中、大がかりな支援体制の必要性を府・市災害ボランティアセンターの主要メンバーが強く認識した結果です。

府市行政や民間企業のバックアップを取り付け、約3カ月の間、支援物資の仕分け、ボランティアバスの公募と派遣、避難所への長期派遣など現地を支援する様々な取り組みを進めてきました。同時に様々な支援情報を提供するためのメール配信システムの運用や被災者同士のつながりを生み出すための「県人会ミーティング」の開催など、京都に避難をされてこられた被災された方々への支援活動も行っています。

私自身も現地には2度ボランティアバスのリーダーとして岩手県陸前高田市に入りました。メディアでのみ見ていた現地でしたが、実際に目の前に展開される風景の圧倒的な「重さ」にはただ息を呑むのみでした。

まる2日間、ひたすらがれきを撤去する作業の後に垣間見た地元の方々笑顔は、何より得難い私達にとっての報酬でした。

災害ボランティア活動はややもすると「支援の押し付け」に陥る可能性があります。しかし、すべての活動は今回の大災害によりほんろうされ、弱くなっている「生きる力」が自らの力で奮い立たせるための「後押し」につながるものでなければなりません。

私達にとって都合のいい「善意」は、地元の方々にとって「悪意」に簡単に変わる可能性があります。

よく「マッチング」という言葉が使われます。ボランティアの善意を善意として現地につなげられるよう調査し、コーディネートする作業です。現地のニーズは多種多様です。仮設住宅への入居が始まる一方で県外への避難者も増えてきています。季節は夏に向かい、住環境（避難所、仮設住宅、その他）も一律ではありません。

現地にとって、我々災害ボランティアの力はまだまだ必要ですが、そのニーズは複雑多様化しています。これから現地支援を考えておられる方には、現地の状況や情報を集め、「やりたいことをしに行く」のではなく、現地にあわせて自らの活動を変えていく、そんなスタンスをもっていただきたいと思っています。

いずれにしても復興にはまだまだ長い時間とたくさんの支援が必要です。ぜひ、ゆめっと京都のみなさんの力をお貸しいただきたいと思います。

京都災害ボランティア支援センター

URL: <http://www.saigai-v.com/>

平成23年度ゆめっと京都 役員体制

| | |
|----------------------|---------------------------|
| 代表 | 神崎清一 (京都YMCA) |
| 副代表 総務、活動交流事業(委員長)担当 | 仲 友治 (青年塾むげんの会) |
| 副代表 ゆめ企画、活動交流事業担当 | 梅原正俊 (京都曹洞宗青年会) |
| 副代表 広報(委員長)、ゆめ企画担当 | 植月和男 (茶道裏千家淡交会総本部青年部) |
| 統轄 総務、ゆめとな夜(委員長) | |
| 京都府災害ボランティアセンター副代表 | 高桑鉄則 (京都青少年未来の会) |
| ゆめ企画委員長 ゆめとな夜委員 | 澤田猛志 (青年塾むげんの会) |
| ゆめ企画委員 ゆめとな夜委員 | 北條利栄子 (青年塾むげんの会) |
| ゆめ企画委員 | 吉川敬一 (日本ボーイスカウト京都連盟) |
| 活動交流事業委員 | 大雲順次 (京都曹洞宗青年会) |
| 活動交流事業委員 | 砂山真一 (ポジティブアースネイチャーズスクール) |
| 広報委員 | 中村彰利 (京都キャン協協会) |
| 広報委員 | 福島 宏 (個人会員) |
| 会計監査 | 竹内 肇 (京都海外協力協会) |
| 会計監査 | 塩見日出勝 (京都府北部国際交流協会) |
| 顧問 京都府災害ボランティアセンター監事 | 竹内文成 (元幹事長) |
| 顧問 | 永井崇博 (元統轄) |
| 顧問 | 北村隆幸 (元代表) |
| 顧問 | 石橋裕志 (前代表) |
| 事務局 | 佐野延江 (京都府青少年育成協会) |